



創立50周年を迎えて

足田 智昭

この度、当社が無事に50周年を迎えられましたのも、ひとえに主要客先をはじめ関係先のご指導とご支援のおかげと、従業員一人一人、そしてOBの方々のご協力ご努力があってのことであり心より感謝申し上げます。

昔から、会社の寿命は30年と言われていましたが、今も変わりなく短命で終わる会社は少なくありません。そんな中、当社も何度か経営危機や苦しい局面と直面した訳ですが、その都度、乗り越えてこれたのは、まさに運を味方に出来たからと言っても間違いではないと思います。

会社の歴史は「ゴールのない駅伝」と同じで、それぞれの場面で多くの方々から襷を繋いで今日がある訳です。常に人を育て、職場の活力を保ち、未来に向けて確実に繋いでいくことが大切であります。

今後も、会社の信用と鶴海イズムを大切に、ゴールのない目標に向かって、全員で頑張っていきたいと思っております。鶴崎海陸グループの更なる発展と、皆様方のご健康を祈念いたしまして挨拶いたします。



エステケイテクノロジー株式会社

GROUP POWER ともに歩む グループ企業



鶴見興産株式会社



大分マリンサービス株式会社

鶴崎海陸グループ8社。
従業員1800名、総売上高400億円。
県内有数の企業グループを形成し、地域と基幹産業のニーズに依っている。



鶴海運輸株式会社



西ノ洲環境株式会社



株式会社ホックス



ナカノ建設工業株式会社



埋め立て前の三佐沖

大野川河口一帯、とくに三佐のノリはすでに江戸時代から著名であり昔から名高い産物であった。



ノリ養殖準備作業

家族一緒に準備作業する疋田家。



臨海工業地帯造成決定

昭和31年度に大分県政の重要施策として臨海工業地帯の造成が決まり、昭和34年には大分川左岸から大野川右岸に埋立地を造成する第1期計画が着工された。



埋立地造成

農業県から工業県へと県政の変化、日本中が豊かさを求める時代の流れの中での反対運動は、大きな力の前にはあらがえないものであった。



三佐漁協の人たち

工業化の波の中、転業を決意する三佐漁協の人たち。県と漁協との長期にわたる漁業補償交渉は100回以上にのぼったと言われる。



昭和35年4月18日

13名の出資者により資本金500万円の転業会社 鶴崎海陸運輸が誕生した。



初代社長 鶴丸大輔氏

創立には鶴丸海運の指導が大きく、初代社長には鶴丸大輔氏が就任した。



鶴崎海陸運輸 誕生

地元転業者から取締役となり仕事を仕切ったのは当時35歳の疋田功であった。



本社移転

昭和35年9月16日 三佐・新港に本社を移転。鶴崎海陸の人間にとって父祖の土地、新港に本社事務所が持てたのは大きな喜びであった。

●昭和37年 鶴崎海陸社屋



昭和37年 本社移転

三佐2463番地の家島橋たもとに本社移転。



九州石油(株)請負契約

昭和39年4月
九州石油(株)大分製油所、
構内請負契約の締結。



構内石油販売開始

昭和39年8月
構内石油販売開始、大分港
不定期航路事業免許取得。



昭和電工(株)請負契約

昭和43年1月
昭和電工大分石油化学コ
ンピナートの請負基本契
約の締結となり構内作
業、原料受入れ、製品
の出荷、輸送などの元請
企業となった。



昭和43年 独身寮竣工

昭和43年11月
鉄筋コンクリート造りの
独身寮完成する。



昭和44年 本店移転

昭和44年12月
本店を三佐1000番地に新
移転する。



昭和45年 仕事始め式

昭和45年当時の初任給
は、高卒男子で26,500円、
大卒男子で33,000円。
ガソリンは1Lが45円の時
代であった。



昭和45年 援農隊結成

高度成長期、人手不足は
深刻で、農家の人達が働
き手の中心、農繁期には
大勢が一斉に休むという
問題が発生し、解消のた
め従業員による援農隊が
結成された。



疋田功 社長就任

昭和46年 鶴崎海陸運輸
はえぬきの疋田功が社長
に就任。昭和50年4月には
大分商工会議所の副会頭
に就任。
地域経済にも重要な役割
を果たすところとなる。



新日本製鐵(株)構内作業

昭和46年9月 新日本製鐵(株)構内作業契約なる。
昭和47年4月19日午前10時30分第1号高炉に火が入り5月より3交替勤務が開始新日鐵事業部は活気付いた。



昭和47年 電車撤去作業

昭和47年5月
電車撤去作業(電車は一路岡山へ)



昭和49年 入社式

昭和49年4月1日
鶴崎商工会館にて、新卒の入社式が行われた。男性7名、女性9名が入社。流行のミニスカート姿での入社式が懐かしい。



安全大会を開始

昭和49年7月1日
第1回安全大会が昭和電工体育館で実施。(写真はS52年第4回大会)
平成に入り、安全週間にあわせて労使合同の家庭訪問活動を実施している。



自主管理活動を開始

昭和49年12月2日
鶴崎商工会館にて第1回自主管理活動発表大会を開催。
全社の各職場において、日々の改善活動が大きな成果をあげている。



労使共同経営めざす

昭和47年10月、労働組合が結成された。
昭和50年2月から、経営会議に労働組合三役も参加するという新経営方式が導入され、現在も継続されている。



一般貸切旅客自動車免許取得

昭和52年3月
一般貸切旅客自動車免許を取得、本船～税関間にシーメンズ・バス運航開始。



特別功労賞受賞

昭和53年：中小企業センター賞、54年：大分合同新聞社特別功労賞、55年：九州山口地域経済貢献経営者賞を受賞。



春の園遊会

鶴崎海陸は、広く社会に認知されることとなった。創業以来全力で走り続ける正田功の功績のみならず、共に支え続けたツルエ夫人の内助の功もあった。



正田丸 自主運航

昭和59年11月
タグボート「正田丸」自
主運航を開始。



鶴海パワーの源

懐かしい昭和のレクリエー
ション。時代の流れの中で発
揮した鶴海パワーの源。グ
ループの和の象徴であった。



昭和のレクリエーション



黄綬褒章受章

平成2年4月
正田功が黄綬褒章を受章。



つるかいOB会 発足

平成5年10月
つるかいOB会が発足。
佐藤清OB会長をはじめ、
現在およそ300名の会員で
様々な活動に取り組んで
いる。



株式会社国際貿易センター

平成6年12月
FAZ推進母体、株式会社国
際貿易センター社長に正
田功が就任。



会長 社長 就任

平成7年3月 正田智昭社長
へトップ交代。鶴海グル
ープの総帥として、社業の発
展はもとより大分県港運協
会、大分県貿易協会などの
会長として地域発展の為に
尽力している。



大在コンテナヤード稼動

平成8年11月
大分FAZ中核施設、大在
コンテナヤードが稼動、
本格的なコンテナ荷役と
冷凍冷蔵倉庫運営開始。



「マイセルフまぎ」オープン

平成14年4月
セルフスタンド「マイセルフまぎ」
オープン。



「第3こうのとりのとり」就航

平成14年6月
給油船「こうのとりのとり・海龍丸」の代替船として「第3こうのとりのとり」就航。



労働組合新事務所完成

平成14年10月
労働組合新事務所完成。



「アクアクララ大分工場」竣工

平成16年6月
「アクアクララ大分工場」竣工。水の製造宅配事業に参入。

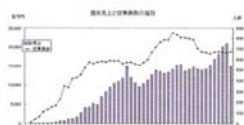


STORKから「ENEOS」へ

平成20年10月 新日本石油株式会社と九州石油株式会社の経営統合により組織名称を九石事業部から「新日精事業部」へ（現、JXエネルギー事業部）ブランド名を「ENEOS」へ変更。

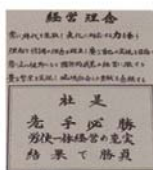


平成のレクリエーション



暦年売上と従業員数

操業初年度の売上高700万円から始まり、昭和56年に売上高100億円を超え、平成19年には200億円を超えた。売上と従業員の推移は地域に支えられ、ともに成長してきた証である。



経営理念・社是

現在の経営理念・社是は昭和51年4月に決定され、毎月「安全の日の行事」で唱和されている。



GO FOR 100TH

鶴崎海陸が誕生して50年荒波の中、様々な方々に支えられ未来へと航海する鶴海丸。新たな出航に向け、いま鶴海グループ一丸となり更なる挑戦をここに誓い合おう。